

G 1 安田記念 調教 G メン井内氏の調教評価

人気薄で勝つための調教内容を網羅

春開催の東京マイル。

時計の速い決着が続いていることもあり、最終追い切りがトラック馬場で馬なりという、軽い調教内容が好走しています。

これについては、NHK マイル C とヴィクトリア M の予想コラムでも同様の内容を記しました。

その結果、本命にした馬はきっちりと勝ち切ってくれています。

6月6日の東京は雨の予報もあるだけに、そこを重視すれば、時計を要して坂路調教に適性が振れるという可能性もありますが、ここは良馬場での予想で通すことにしました。

◎ギバオンは最終追い切りが CW で馬なり。

終始右手前での走りとなり、右回りでは逆手前ということになります。

ただ、右手前での走りの方が推進力があり、やっぱり左回りが向いているという印象を受けます。

逆手前でいて、最終追いの 5F 時計は 64 秒台。

馬なりなのに速い時計が出るという内容は、
昨年の安田記念 1 着馬と同じパターンになります。

また、今回は栗東坂路を併用して標準多め併用の仕上げですが、
過去 5 年では 16 年口ゴタイプ(8 人)や 17 年サトノアラジン(7 人)が
追い切り本数が標準以上の併用系統で優勝しており、人気薄で勝つための
調教内容を網羅しているといっただいでしょう。

○グランアレグリアは最終追い切りが美浦坂路。
昨年の安田記念、そして、前走のヴィクトリア M は
いずれも最終追い切りが南 W で馬なりでした。

今回は中 2 週というローテーションも考慮されての美坂だと思いますが、
過去 2 勝を挙げた東京マイル G1 とは違う調教パターンであることは間違いありません。

とはいえ、高松宮記念で 2 着した時が美坂での追い切りでしたし、
今回の調教内容はそれにそっくり。
これらの上げ下げをした結果が 2 番手という評価だにご理解いただければと思います。

▲ラウダシオンは最終追い切りが CW で馬なり。

今回、なにより驚いたのは中 2 週なのに、

ノーザン F しがらきへの放牧を挟んでいるという調整過程。

それでいて、1 週前追い切りは金曜日に CW でしっかり時計を出して、
最終追いは軽め。

この緩急のある調整でどんな結果を得ることができるのか。すごく興味深いところです。

△インディチャンプは最終追い切りが栗東坂路。

19 年の 1 着馬ですが、当時の 4F 時計が 51.6 秒で、今回が 51.8 秒。

3 週続けて併せ馬を先着するなど、調教の負荷はしっかりとかけられており、

マイル G1 で 2 勝を挙げた実力を発揮できる状態にあると思います。

☆ケイデンスコールは最終追い切りが栗東坂路。

オーロC以降、追い切りに岩田康誠騎手が跨っていますが、
これにより、確実に馬が充実しているようです。

それが最終追いの 1F11.6 秒というラストの伸びにも表れていると思います。

注ダノンプレミアムは最終追い切りが CW で強め。

過去 2 回の安田記念大敗とは、ちょっと違ったパターンで仕上げており、
今回はあらためて見直しが必要。標準併用という調教タイプはいいと思います。

注ダイワキャグニーは最終追い切りが南 W で馬なり。

標準併用の調教タイプであり、調教内容は申し分ありません。

注カテドラルは最終追い切りが栗東坂路ですが、調教タイプは標準併用。

東京マイルで脚をためる走りに徹すれば、崩れることがないタイプ。

追い切りでも終いに脚を残す走りですっかり動いていますし、
ここも好走できる状態にはあります。